

R3 年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

(R4.2.1)

法人名	株式会社 ドリーム愛寿	代表者	野手 浩美	法人・ 事業所 の特徴	理念：のどかな田園地帯の中で、クロスランドタワー越しに稲葉山が眺められる「愛寿乃里」はどこか懐かしく、ゆったりとした時間の中で、5つのしあわせ「愛」「安全」「安心」「温かい」「明るい」を目指します。 運営方針：住み慣れた地域でいつまでもみんなと暮らしたい。
事業所名	愛寿乃里	管理者	村中 梢		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	3人	3人	人	2人	1人	人	3人	人	13人

項目	前回の(R3)改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・公明かつ公平な個人評価を通して、自己満足に陥ることのないサービスの資質向上と一人ひとりの達成感と意欲の向上を図る。	・一人ひとりが自己目標と自己研鑽、結果評価により更なる高い目標の設定へと取り組む努力をしてきた。	・計画では具体的な改善計画と達成目標を決めているが、進捗状況の把握に工夫が必要な印象を受けた。	・よりよい事業所として力を発揮できるようスタッフで話し合い、スタッフ一人ひとりが主体的に目標に向けて取り組めるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	・地域密着型施設として「住み慣れた地域でその人らしく暮らしたい」という思いの実現に向けたサービスを提供し要望に応えていく。	・新型コロナ感染拡大防止対策の1カ年に感染防止消耗品等諸備品を備蓄増で対応、面談や記録の情報機器導入等で利用者やご家族、職員の不安軽減に努めた。	・玄関脇に、利用者と家族が気兼ねなく話のできる場所があればいいと思う。	・引き続き新型コロナ感染対策を継続しつつ、事業者内での利用者の様子などを家族や地域に知ってもらえるよう情報発信する。
C. 事業所と地域のかかわり	・新型コロナ禍という制約はあるが、適宜に柔軟に対応した地域住民との関りを展開していきたい。	・社会生活の大きな変革に伴い、地域活動等の行動が大幅に制限されたが、事業所内のレクリエーションなどで急激な環境変化に対応した。	・地域に存在する事業所として、時期、諸団体、年齢層にこだわらず遠慮なく関わってほしい。	・地域に根差す事業所として地域に、より関りを持ち相談しやすい場所となれるよう努める。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・利用者が地域の中で一人の住民として存在を自覚できるようイベント等への参加を進めていく。	・ニューノーマルな生活変化に伴い、環境変化が治まるまで、人の参画は取り止め、作品展を行った。	・地域へは、遠慮なく意見要望を言ってきてほしい。	・地域の方々と共に利用者の生活を支え、介護を必要な方々が安心して暮らせるまちづくりに寄与する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・事業所のサービス内容や3年ごとの介護報酬改訂について率直な意見を交わし相互理解に努めていく。	・書面会議（5月、7月、9月）で、定例議題のほか感染拡大予防の取り組み状況を毎回議題に掲載した。	・書面会議は、やむを得ない措置であるが、事業所内活動が不透明にならないよう配慮されたい。	・事業所のサービス内容にとどまらず地域の課題をも取り上げ活発に意見交換できる場としたい。

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・風水害等自然災害に対する訓練について避難方法・手段を再度検討する。 ・夜間防災訓練についても、前回の指導事項を全職員に周知徹底、安全かつ迅速な避難の展開と実施に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で事業所及び地域の防災訓練は、相互の参加は見合わせざるをえなかった。 ・事業所法定訓練は、前回指導事項を全職員に周知し実施した。また、避難場所への移動手段や階段での2階への移動方法、防災備品の備え付け確認を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害に係る計画の届け出はされているが、実施にあたって想定外にも対応できるよう配慮されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の改善点を踏まえ、自然災害訓練、夜間防災訓練を実施し、より安全かつ迅速な避難を実施できるよう努める。
----------------------------	--	---	--	---